

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着はほぼ終了

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) サンカクフジツボ

ラーバは久栗坂沖で3.9個体/m³、川内沖で3.1個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは久栗坂沖で4.4個体/m³、川内沖で1.6個体/m³見られました(表1、図3)。

(3) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません(表1)。

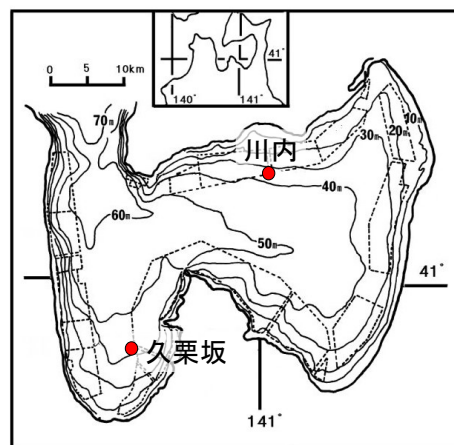


図1 付着生物ラーバの調査地点

2 今後の見込み

(1) サンカクフジツボ

付着直前のラーバ(図4)の出現数はさらに減少したため、付着はほぼ終了と考えられますが、7、8月にラーバの出現が多かったことから、来春の耳吊り作業の効率が低下すると思われる。

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
久栗坂沖	R6.9.2	0.0	4.4	3.9
川内沖	R6.9.2	0.0	1.6	3.1

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内



図4 付着直前のサンカクフジツボラーバ(キプリス幼生)

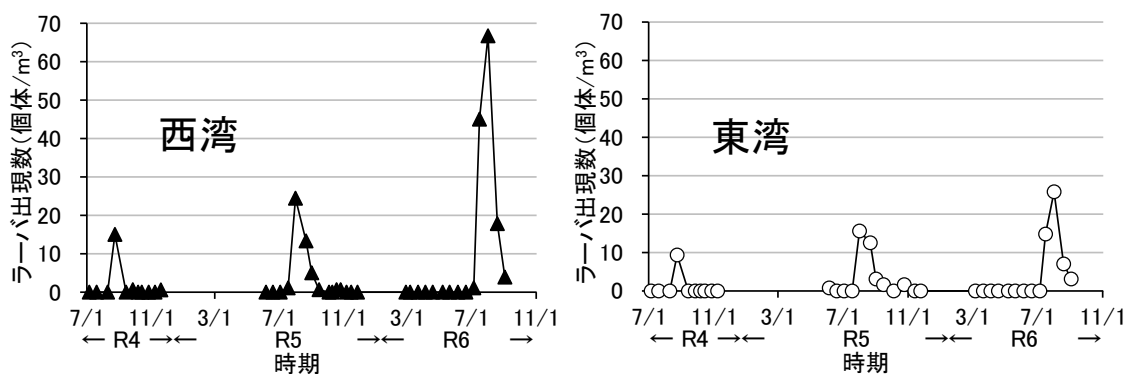


図2 サンカクフジツボラーバ出現数の推移(令和4年7月~令和6年9月)

・令和元年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾59個体/m³、東湾45個体/m³

(2) ムラサキイガイ

ラーバは周年出現しており、今年は1月に出現のピークが見られました。今後、秋から冬にかけて出現数が増加する可能性があります。

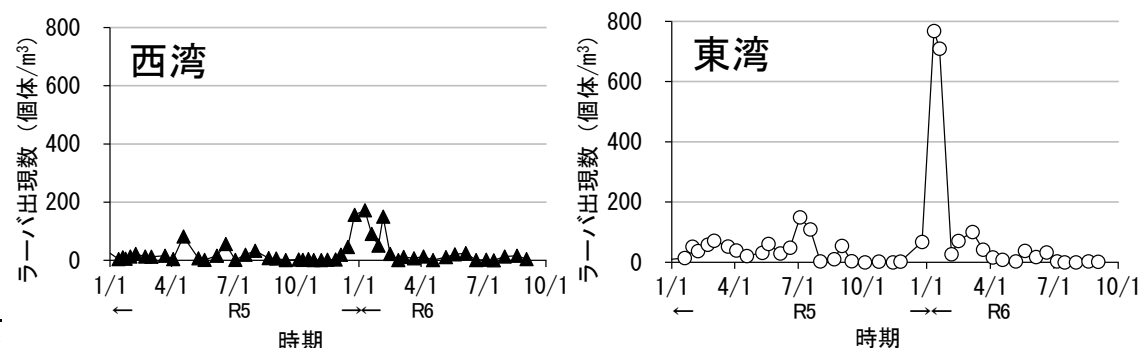


図3 ムラサキイガイラーバ出現数の推移(令和5年1月~令和6年9月)

・平成27年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾429個体/m³、東湾1,650個体/m³

(3) ユウレイボヤ

例年、中層水温が20℃を下回るとラーバが出現してきます。

